



バーコードリーダー パラメータ設定ガイド

対応型式
CM-890 Series



ウェルコムデザイン株式会社

本社 〒651-2242 神戸市西区井吹台東町1-1-1 西神南センタービル
SDC 〒651-2102 神戸市西区学園東町6丁目2-3-1F

TEL. 078-993-6010 (代) FAX. 078-993-6020 [本社 & SDC]

(※) SDC stands for Support and Delivery Center

URL: www.e-welcom.com
e-mail: welcom@e-welcom.com

東京 〒113-0034 東京都文京区湯島 3-14-9 湯島ビル
TEL. 03-3836-9411 (代) FAX. 03-3836-9412

[illegible]

1. 本書の内容に関しては、将来予告無しに変更することがあります。
2. 本取扱説明書の全部又は一部を無断で複製することはできません。
3. 本書内に記載されている製品名等の固有な名詞は各社の商標又は登録商標です。
4. 本書内において、万一誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたらご連絡ください。
5. 運用した結果の影響について、責任を一切負いかねます。

製品保証と注意事項

「保証期間」

本製品の保証期間は、ご購入日より 1 ヶ年とさせていただきます。

「保証範囲」

保証期間中に納入者側の責により故障を生じた場合は、納入者側において機器の修理または交換を行います。但し、保証期間内であっても、次に該当する場合は、保証対象から除外させていただきます。

- 需要者側の不適当な取り扱いならびに使用
- 故障の原因が納入者以外の事由による場合
- 外装部品の損傷
- 自然劣化・消耗部品
- 需要者側で改造・修理を行った場合
- 天災地変による場合

尚、ここでいう保証は納入品単体の保障を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。

「修理」

修理は全てドック方式で行います。現地での出張修理などは一切行いません。

「電波障害自主規制について」

本装置は米国通信規制「FCC 第 15 条補足 J」による計算機器制約条件に適合しております。商業環境での使用において妥当な保護措置がなされています。しかし、住宅地域でのご使用は妨害（ラジオ・テレビなどの受信障害）が起こることがあります。

「その他」

- 納入品の価格には、サービス費用は一切含んでおりません。

安全上の注意

安全にお使い頂くために必ずお守りください。

警告・注意表示は、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために守って頂きたい事項を示しています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読み下さい。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷の発生が想定される内容を示しています。

絵記号の意味

	＜注意＞ 一般的な注意、警告、危険の通知を示しています。		＜禁止＞ 一般的な禁止を示しています。
	＜発火注意＞ 発火の可能性が想定されることを示しています。		＜水気禁止＞ 風呂、シャワーなどの水気の多い場所での使用を禁止することを示しています。
	＜感電注意＞ 感電の可能性が想定されることを示しています。		＜分解禁止＞ 製品の分解や改造を禁止することを示しています。
	＜破裂注意＞ 破裂の可能性が想定されることを示しています。		＜ケガ注意＞ 指を挟まれるなど、ケガを負う可能性が想定されることを示しています。



■本装置を絶対に分解しないで下さい。故障・感電（火災）の原因になります。



■直射日光が長時間当たる場所、粉塵の多い場所、湿気が異常に多い場所、水を扱う場所、暖房機器などの発熱物の近くなでは使用しないで下さい。故障・感電（火災）の原因になります。



■ケーブルに重いものを載せないで下さい。また、ケーブルをねじったり、強く引っ張ったりしないで下さい。ケーブルの被覆破れや断線が発生し、故障・感電（火災）の原因になります。



■引火性のガスや発火性の物質のある場所及び薬品や化学物質などを扱う場所では、絶対に使用しないで下さい。火災・爆発・故障の原因になります。



■故障した状態のまま使用しないで下さい。異臭がする、煙が出たなどの異常が生じた時は、すぐに接続している機器の電源をOFFにし、コネクタを抜いて下さい。感電（火災）の原因になります。





■使用可能な温度・湿度内で使用して下さい。故障の原因になります。



■濡れた手でケーブルの接続や取り外しを行わないで下さい。故障・感電の原因になります。



■長期的な振動（バイクの荷台や自転車での移動）や強いショック（落下）を与えないで下さい。
故障の原因になります。



■温度が激しく変化する場所（夏場の車内）や熱器具など熱を発生する物の近くに放置しないで下さい。
装置のケースが変形したり、故障の原因になります。



■不安定な場所（棚など）でのご使用や保管は避けて下さい。不用意な落下による故障やけがの原因になります。



■揮発性の高い有機溶剤（シンナー・ベンジンなど）や薬品、化学雑巾で拭かないでください。
また、殺虫剤を吹きかけないで下さい。ケースの変形や変色の原因になります。



INDEX

1. はじめに	10
2. システムコメント	11
3. 一般動作に関するパラメータ	12
3.1. 小文字/大文字変換	12
3.2. コード桁数送信	12
3.3. コード名送信	12
3.4. ファンクション・エミュレーション	13
3.5. コード ID 送信	13
3.6. 読取照合	14
3.7. 読取モード	15
3.8. 読取タイムアウト	16
3.9. プロセッサタイムアウト	17
3.10. グローバル読取桁数	18
4. スキャナモードに関するパラメータ	19
4.1. パワー・オフェンシブ	19
4.2. 同一コード読取防止	19
4.3. グット・リード・ヒープ	20
4.4. グット・リード・バンプ・レタ	21
5. ホストインターフェイスに関するパラメータ	22
5.1. ホストインターフェイス	22
5.2. USB キーボード / キーボード インターフェイス	23
5.2.1. キーボード タイプ	23
5.2.2. CAPS ロック	23
5.2.3. 数字データ送信	23
5.2.4. 送信レート	24
5.2.5. 送信デレイ	24
5.3. RS232C/USB-COM インターフェイス	25
5.3.1. USB-COM モード	25
5.3.2. ポーレート	25
5.3.3. データビット	25
5.3.4. ストップビット	26
5.3.5. パリティ	26
5.3.6. フォーマット	26
5.3.7. 送信デレイ	27
5.3.8. 送信タイムアウト	28
6. バーコードに関するパラメータ	29
6.1. UPC-A	29
6.2. UPC-E	31
6.3. JAN/EAN-13	33
6.4. JAN/EAN-8	35
6.5. コード 39	37
6.6. インタリープド 2/5	39
6.7. インターストリアル 2/5	41
6.8. マトリクス 2/5	43
6.9. コーダバール (NW7)	45
6.10. コード 128	47
6.11. コード 93	49
6.12. コード 11	51
6.13. MSI/Plessey	53
6.14. UK/Plessey	55
6.15. Telepen	57
6.16. GS1 Databar (RSS14)	59
6.17. GS1 Databar Limited (RSS14 Limited)	61

6.18. GS1 Databar Stacked(RSS14 Stacked)	63
6.19. GS1 Databar Expanded(RSS Expanded)	65
6.20. GS1 Databar Expanded Stacked(RSS Expanded Stacked)	66
7. データ送信フォーマットに関するパラメータ	67
7.1. プリアンプル	67
7.2. ホストアンプル	68
7.3. プリフィックス	69
7.4. サフィックス	70
補足 A キーボードコード表 & ASCII コード表	71
補足 B データ送信フォーマット	72
補足 C サンプルバーコード	73
修理依頼書	75

Blank page

1. はじめに

この度は、弊社バーコードリーダーシリーズ（以下、バーコードリーダー）をお買い上げいただきありがとうございます。
本書は、バーコードリーダーのパラメータ設定方法を記載した別冊パラメータ設定ガイドです。基本的な導入方法に関しては、製品に同梱されている導入ガイドに書かれていますので、補足ガイドとしてご利用ください。

本書に掲載しているコマンドバーコードを読み取ることで、バーコードリーダーのインターフェイスや読み取りに関するパラメータ設定が行えます。設定されたパラメータは、不揮発性メモリに保存されるため、電源を切にしても設定が消えることはありません。

2. システムコマンド

コマンドバーコード	説明
 / \$ % E N T	<u>設定開始</u> 左記のコマンドバーコードをスキャンすると、設定モードに入ります。
 Z E N D	<u>設定終了</u> 左記のコマンドバーコードをスキャンすると、パラメータ変更内容を保存し、設定モードを終了します。
 Z E X T	<u>設定キャンセル</u> 左記のコマンドバーコードをスキャンすると、パラメータ変更内容を保存せずに、設定モードを終了します。
 Z A D E	<u>全デフォルト</u> 左記のコマンドバーコードをスキャンすると、インターフェイス設定を除く、全パラメータを工場出荷時の値にリセットします。
 Z D E F	<u>バーコードデフォルト</u> 左記のコマンドバーコードをスキャンすると、バーコードに関する全パラメータを工場出荷時の値にリセットします。
 Z K B D	<u>USB キーボード インターフェイスデフォルト</u> 左記のコマンドバーコードをスキャンすると、USB キーボード インターフェイスに関する全パラメータを工場出荷時の値にリセットします。
 Z 2 3 2	<u>RS232C/USB-COM インターフェイスデフォルト</u> 左記のコマンドバーコードをスキャンすると、RS232C/USB-COM インターフェイスに関する全パラメータを工場出荷時の値にリセットします。
 Z V E R	<u>ファームウェアバージョン</u> 左記のコマンドバーコードをスキャンすると、ファームウェアバージョンを出力します。
 Z I S P	<u>ファームウェアアップデートモード</u> 左記のコマンドバーコードをスキャンすると、USB-COM インターフェイスで初期化された後、ファームウェアアップデートモードに移行します。

3. 一般動作に関するパラメータ

3.1. 小文字/大文字変換

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバrcode	説明	デフォルト
 8 F 8 0	無し	■
 8 F 8 1	小文字・大文字反転変換	
 8 F 8 2	小文字変換	
 8 F 8 3	大文字変換	

3.2. コード桁数送信

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバrcode	説明	デフォルト
 8 C 5 0	無し	■
 8 C 5 1	有り	

3.3. コード名送信

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバrcode	説明	デフォルト
 8 C 0 0	無し	■
 8 C 0 1	有り	

3.4. ファンクションキーエミュレーション

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 8 C 4 0	無し	■
 8 C 4 1	有り	

3.5. コード ID 送信

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 8 C 3 0	無し	■
 8 C 3 1	有り	
 8 C 2 0	読取データの前に送信	■
 8 C 2 1	読取データの後に送信	

バーコードシンボル	コード ID
UPC-A	A
UPC-E	E
JAN-13/EAN-13	F
JAN-8/EAN-8	FF
コード 39	M
インターリーブド 2/5	I
インターストリアル 2/5	H
マトリクス 2/5	G
コードバー (NW7)	N
コード 128	K
コード 93	L
コード 11	O
MSI/PLESSEY	P
UK/Plessey	R
Telepen	S
GS1 Databar	T
GS1 Databar Limited	U
GS1 Databar Stacked	V
GS1 Databar Expanded	W
GS1 Databar Expanded Stacked	X

3.6. 読取照合

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバ-コード	説明	デフォルト
 8 B 7 0	無し	
 8 B 7 1	有り	■
 8 1 0 2	読取照合回数 左のコマンドバ-コード をスキャンした後、続けて下記の数値バ-コード で 2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バ-コード をスキャン します。設定範囲は 00~10 です。例えば、5 回に設定したい 場合は、「設定開始」「読取照合回数」「0」「5」「確定」「設定終了」 の順でスキャンします。	02
数値バ-コード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

3.7. 読取モード

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 8 A C 2	<u>グットリードオフモード</u> トリガボタンを押すと、ビームを照射し、読み取りを開始します。 正しくバーコードをスキャンするか、読取タイムアウトで設定された時間が経過すると、読み取りを終了します。	■
 8 A C 4	<u>モーションモード</u> トリガボタンを押している間、ビームを照射し、読み取りを試みます。 トリガボタンを話すと、読み取りを終了します。	
 8 A C 5	<u>ルターネイトモード</u> トリガボタンを一度押すと、ビームを照射して読み取りを開始し、再度押すと、読み取りを終了します。	
 8 A C 3	<u>タイムアウトモード</u> トリガボタンを押すと、ビームを照射し、読み取りを開始します。 読取タイムアウトで設定された時間が経過すると、読み取りを終了します。	
 8 A C 1	<u>コンティニアスモード</u> 常にビームを照射し、読み取りを試みます。	
 8 A C 0	<u>テストモード</u> テスト専用モードです。通常運用では、使用しないでください。	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 A 6 0	<u>紙面検知機能 オフ</u> 紙面検知機能をオフにします。	■
 0 A 6 1	<u>紙面検知機能 オン</u> 紙面検知機能をオンにします。バーコードを読取エリアにかざすと、ビームを照射し、自動的に読み取りを試みます。	□ (CM-008)

✓ 読取モードを変更する場合は、先に紙面検知機能をオンに設定してください。

3.8. 読取タイムアウト

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 8 1 7 2	読取タイムアウト 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99で、単位は秒です。例えば、10秒に設定したい場合は、「設定開始」「読取タイムアウト」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	05
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

3.9. アドオンタイムアウト

アドオンコード付きの EAN/UPC コードを確実に読み取るためのタイムアウト時間を設定します。

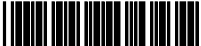
設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 8 1 3 2	アドオンタイムアウト 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99で、単位は100ミリ秒です。例えば、1秒に設定したい場合は、「設定開始」「アドオンタイムアウト」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	10
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

3.10. グローバル読取桁数¹

読み取り可能な全バーコードシリアルに適用する最大読取桁数及び最小読取桁数を設定します。

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 8 1 F 2	<u>グローバル最大読取桁数</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、40桁に設定したい場合は、「設定開始」「グローバル最大読取桁数」「4」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。00は、設定無しを意味します。	0
 8 1 E 2	<u>グローバル最小読取桁数</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、05桁に設定したい場合は、「設定開始」「グローバル最小読取桁数」「0」「5」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。00は、設定無しを意味します。	0
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

¹ JAN/EAN/UPC コードのような桁数が固定されたバーコードシリアルには影響しません。

4. スキャナモードに関するパラメータ

4.1. パワーオンミュージック

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 A 4 0	無し	
 0 A 4 1	有り	■

4.2. 同一コード読取防止²

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 8 B 6 0	無し	■
 8 B 6 1	有り	

² コンティニアスモード / モメンタリモード専用のパラメータです。

4.3. グットリードビーブ

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 8 B 0 0	無し	
 8 B 0 1	有り	■
 8 1 4 2	<u>ビープ音量</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~10です。例えば、音量レベルを5に設定したい場合は、「設定開始」「ビープ音量レベル」「0」「5」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	05
 8 1 6 2	<u>ビープ音色</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に確定バーコードをスキャンします。設定範囲は00~50で、単位は100Hzです。例えば、1KHzに設定したい場合は、「設定開始」「ビープ音色」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	27
 8 1 5 2	<u>ビープ時間</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に確定バーコードをスキャンします。設定範囲は000~255で、単位は10ミリ秒です。例えば、1秒に設定したい場合は、「設定開始」「ビープ時間」「1」「0」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	5
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

4.4. グッドリードバイレータ³

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバースコード	説明	デフォルト
 8 B 2 0	無し	■
 8 B 2 1	有り	
 8 1 A 2	バイレータ動作時間 左のコマンドバースコードをスキャンした後、続けて下記の数値バースコードで2桁の数値をスキャンし、最後に確定バースコードをスキャンします。設定範囲は00~99で、単位は10ミリ秒です。例えば、100ミリ秒に設定したい場合は、「設定開始」「バイレータ動作」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	10
数値バースコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

³ バイレータを搭載したモデルでのみ設定可能です。

5. ホストインターフェイスに関するパラメータ

5.1. ホストインターフェイス

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 O D C 1	USB キーボード / キーボード インターフェイス	■
 O D C 2	RS232C/USB-COM インターフェイス	

5.2. USB キーボードインターフェイス

5.2.1. キーボードタイプ

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 D C 0	101/104 英語キーボード	
 1 D C 2	106/109 日本語キーボード	■

5.2.2. CAPS ロック⁴

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 B 8 0	自動	
 1 B 8 1	ALT+Fnキー	
 1 B 8 2	CAPS ロックオン	■
 1 B 8 3	CAPS ロックオフ	

5.2.3. 数字データ送信

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 1 A 7 0	Numキー送信無し	■
 1 A 7 1	Numキー送信有り	

⁴ 一部の PC で正しく動作しない場合があります。

5.2.4. 送信スピード

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバースコード	説明	デフォルト
 1 B D 8	低速	
 1 B D 9	中速	
 1 B D A	高速	■

5.2.5. 送信デレイ

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバースコード	説明	デフォルト
 1 0 6 2	<u>データ間デレイ</u> 左のコマンドバースコードをスキャンした後、続けて下記の数値バースコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バースコードをスキャンします。設定範囲は00~99で、単位は500ミリ秒です。例えば、10秒に設定したい場合は、「設定開始」「データ間デレイ」「5」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 1 0 5 2	<u>キャラクタ間デレイ</u> 左のコマンドバースコードをスキャンした後、続けて下記の数値バースコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バースコードをスキャンします。設定範囲は00~99で、単位はミリ秒です。例えば、10ミリ秒に設定したい場合は、「設定開始」「キャラクタ間デレイ」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00

数値バースコード	
0  % 0 0	1  % 0 1
2  % 0 2	3  % 0 3
4  % 0 4	5  % 0 5
6  % 0 6	7  % 0 7
8  % 0 8	9  % 0 9
確定  % O K	

5.3. RS232C/USB-COM インターフェイス

5.3.1. USB-COM モード

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 2 A 0 0	無し	■
 2 A 0 1	有り	

5.3.2. ボーレート

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 2 B D C	115,200bps	■
 2 B D B	57,600bps	
 2 B D A	38,400bps	
 2 B D 9	19,200bps	
 2 B D 8	9,600bps	
 2 B D 7	4,800bps	
 2 B D 6	2,400bps	
 2 B D 5	1,200bps	

5.3.3. データビット

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 2 A 6 0	7ビット	
 2 A 6 1	8ビット	■

5.3.4. ストップビット

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 2 A 7 0	1ビット	■
 2 A 7 1	2ビット	

5.3.5. パリティ

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 2 C D 0	無し	■
 2 C D 1	奇数	
 2 C D 2	偶数	

5.3.6. プロトコル

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 2 C C 0	無し 無手順通信を行います。	■
 2 C C 1	<u>RTS/CTS</u> バーコードリーダーは、データ送信開始する際、自信の RTS ラインをアクティブにして、自信の CTS ラインがアクティブになるのを待ちます。CTS ラインがアクティブになると、データ送信を行います。設定された送信タイムアウト時間内に、CTS ラインがアクティブにならない場合は、エラーブープ (ブープ 5 回) を鳴動し、データを破棄します。	
 2 C C 3	<u>スキャルディ</u> バーコードリーダーは、電源が ON になると、自信の RTS ラインをアクティブにします。データ送信開始する際、データ自信の CTS ラインがアクティブになるのを待ち、CTS ラインがアクティブになると、データ送信を行います。	
 2 C C 4	<u>データディ</u> バーコードリーダーは、データ送信開始する際、自信の RTS ラインをアクティブにして、自信の CTS ラインがアクティブになるのを待ちます。CTS ラインがアクティブになると、データ送信を行います。	
 2 C C 5	<u>XON/XOFF</u> バーコードリーダーは、ホストから XOFF (11h) を受信すると、データ送信を中止し、XON (13h) を受信すると、再開します。	

5.3.7. 送信デレイ

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバースコード	説明	デフォルト
 2 0 6 2	<u>データ間デレイ</u> 左のコマンドバースコードをスキャンした後、続けて下記の数値バースコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バースコードをスキャンします。設定範囲は00~99で、単位は500ミリ秒です。例えば、10秒に設定したい場合は、「設定開始」「データ間デレイ」「5」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 2 0 5 2	<u>キャラクタ間デレイ</u> 左のコマンドバースコードをスキャンした後、続けて下記の数値バースコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バースコードをスキャンします。設定範囲は00~99で、単位はミリ秒です。例えば、10ミリ秒に設定したい場合は、「設定開始」「キャラクタ間デレイ」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バースコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

5.3.8. 送信タイムアウト

ここで設定された時間内にデータ送信が正常に行われなければ、送信タイムアウトエラーとなります。

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
コマンドバーコード  6 0 7 2	説明 送信タイムアウト 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99で、単位は秒です。例えば、10秒に設定したい場合は、「設定開始」「送信タイムアウト」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	デフォルト 03
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6. バコードに関するパラメータ

6.1. UPC-A

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバコード	説明	デフォルト
 A A 7 0	読み取り無し	
 A A 7 1	読み取り有り	■
 A B 9 0	アドオン無し	■
 A B 9 1	アドオン2	
 A B 9 2	アドオン5	
 A B 9 3	アドオン2 & 5	■
 A A 0 0	アドオンタイムアウト無し	■
 A A 0 1	アドオンタイムアウト有り ⁵	
 A A 6 0	チェックビット送信無し	
 A A 6 1	チェックビット送信有り	■
 A A 5 0	先頭0削除無し	■
 A A 5 1	先頭0削除有り	

⁵ 確実にアドオンコードを読み取りたい場合は、「アドオンタイムアウト有り」に設定してください。
アドオンタイムアウトの値は、P.16「3.9. アドオンタイムアウト」で設定します。

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 A 0 8 2	<u>前方削除桁数</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。 ヒント 先頭が0のJAN13を13桁で出力したい場合は、下記の順でスキャンしてください。 「設定開始」「前方削除桁数」「0」「確定」「設定終了」	01
 A 0 9 2	<u>後方削除桁数</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.2. UPC-E

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 B A 7 0	読み取り無し	
 B A 7 1	読み取り有り	■
 B B 9 0	アドオン無し	■
 B B 9 1	アドオン2	
 B B 9 2	アドオン5	
 B B 9 3	アドオン2 & 5	■
 B A 0 0	アドオンタイムアウト無し	■
 B A 0 1	アドオンタイムアウト有り ⁶	
 B A 1 0	EAN-13 変換無し	■
 B A 1 1	EAN-13 変換有り	
 B A 6 0	チェックビット送信無し	
 B A 6 1	チェックビット送信有り	■
 B A 5 0	先頭0 削除無し	■
 B A 5 1	先頭0 削除有り	

⁶ 確実にアドオンコードを読み取りたい場合は、「アドオンタイムアウト有り」に設定してください。
アドオンタイムアウトの値は、P.16「3.9. アドオンタイムアウト」で設定します。

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 B 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 B 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.3. JAN/EAN-13

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 C A 7 0	読み取り無し	
 C A 7 1	読み取り有り	■
 C B 9 0	アドオン無し	■
 C B 9 1	アドオン2	
 C B 9 2	アドオン5	
 C B 9 3	アドオン2 & 5	■
 C A 0 0	アドオンタイムアウト無し	■
 C A 0 1	アドオンタイムアウト有り ⁷	
 C A 1 0	ISBN/ISSN 変換無し	■
 C A 1 1	ISBN/ISSN 変換有り	
 C A 6 0	チェックビット送信無し	
 C A 6 1	チェックビット送信有り	■
 C A 5 0	先頭0 削除無し	■
 C A 5 1	先頭0 削除有り	

⁷ 確実にアドオンコードを読み取りたい場合は、「アドオンタイムアウト有り」に設定してください。
アドオンタイムアウトの値は、P.16「3.9. アドオンタイムアウト」で設定します。

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 C 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 C 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.4. JAN/EAN-8

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 D A 7 0	読み取り無し	
 D A 7 1	読み取り有り	■
 D B 9 0	アドオン無し	■
 D B 9 1	アドオン2	
 D B 9 2	アドオン5	
 D B 9 3	アドオン2 & 5	■
 D A 0 0	アドオンタイムアウト無し	■
 D A 0 1	アドオンタイムアウト有り ⁸	
 D A 1 0	EAN-13 変換無し	■
 D A 1 1	EAN-13 変換有り	
 D A 6 0	チェックビット送信無し	
 D A 6 1	チェックビット送信有り	■
 D A 5 0	先頭0 削除無し	■
 D A 5 1	先頭0 削除有り	

⁸ 確実にアドオンコードを読み取りたい場合は、「アドオンタイムアウト有り」に設定してください。
アドオンタイムアウトの値は、P.16「3.9. アドオンタイムアウト」で設定します。

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 D 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 D 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.5. コード 39

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 E A 7 0	読み取り無し	
 E A 7 1	読み取り有り	■
 E B 9 0	フルアスキー読み取り無し	■
 E B 9 1	フルアスキー読み取り有り	
 E A 2 0	スタート/ストップ キャラクタ送信無し	■
 E A 2 1	スタート/ストップ キャラクタ送信有り	
 E B B 0	チェックビット検査無し	■
 E B B 1	チェックビット検査有り	
 E A 6 0	チェックビット送信無し	■
 E A 6 1	チェックビット送信有り	
 E A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 E A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 E 0 A 2	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、4桁に設定したい場合は、「設定開始」「最小読取桁数」「0」「4」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 E 0 B 2	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、10桁に設定したい場合は、「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 E 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 E 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.6. インターリード 2/5

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 H A 7 0	読み取り無し	
 H A 7 1	読み取り有り	■
 H B B 0	チェックビット検査無し	■
 H B B 1	チェックビット検査有り	
 H A 6 0	チェックビット送信無し	■
 H A 6 1	チェックビット送信有り	
 H A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 E A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 H 0 A 2	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、4桁に設定したい場合は、「設定開始」「最小読取桁数」「0」「4」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	04
 H 0 B 2	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、10桁に設定したい場合は、「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 H 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 H 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.7. インダストリアル 2/5

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 I A 7 0	読み取り無し	■
 I A 7 1	読み取り有り	
 I B B 0	チェックビット検査無し	■
 I B B 1	チェックビット検査有り	
 I A 6 0	チェックビット送信無し	■
 I A 6 1	チェックビット送信有り	
 I A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 I A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 I 0 A 2	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、4桁に設定したい場合は、「設定開始」「最小読取桁数」「0」「4」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	04
 I 0 B 2	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、10桁に設定したい場合は、「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 I 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 I 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.8. マトリクス 2/5

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 J A 7 0	読み取り無し	■
 J A 7 1	読み取り有り	
 J B B 0	チェックビット検査無し	■
 J B B 1	チェックビット検査有り	
 J A 6 0	チェックビット送信無し	■
 J A 6 1	チェックビット送信有り	
 J A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 J A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 J 0 A 2	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、4桁に設定したい場合は、「設定開始」「最小読取桁数」「0」「4」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	04
 J 0 B 2	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、10桁に設定したい場合は、「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 J 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 J 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.9. コーダバ (NW7)

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

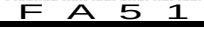
コマンドバークード	説明	デフォルト
 G A 7 0	読み取り無し	
 G A 7 1	読み取り有り	■
 G B 9 0	スタート/ストップパターン ABCD/ABCD	■
 G B 9 1	スタート/ストップパターン abcd/abcd	
 G B 9 2	スタート/ストップパターン ABCD/TN*E	
 G B 9 3	スタート/ストップパターン abcd/tn*e	
 G A 2 0	スタート/ストップキャラクタ送信無し	■
 G A 2 1	スタート/ストップキャラクタ送信有り	
 G B B 0	チェックビット検査無し	■
 G B B 1	チェックビット検査有り ⁹	
 G A 6 0	チェックビット送信無し	■
 G A 6 1	チェックビット送信有り	
 G A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 G A 5 1	先頭 0 削除有り	

⁹ Mod 16 によるチェックビット検査を行います。

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 G 0 A 2	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、4桁に設定したい場合は、「設定開始」「最小読取桁数」「0」「4」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 G 0 B 2	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、10桁に設定したい場合は、「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 G 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 G 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.10. コード 128

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 F A 7 0	読み取り無し	
 F A 7 1	読み取り有り	■
 F B 9 0	GS1-128 読み取り無し	■
 F B 9 1	GS1-128 読み取り有り ¹⁰	
 F B B 0	チェックビット検査無し	
 F B B 1	チェックビット検査有り	■
 F A 6 0	チェックビット送信無し	
 F A 6 1	チェックビット送信有り	■
 F A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 F A 5 1	先頭 0 削除有り	

¹⁰ 先頭の FNC1 は、]C1 に、その他の FNC1 は、GS(1Dh)に変換されます。

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 F 0 A 2	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、4桁に設定したい場合は、「設定開始」「最小読取桁数」「0」「4」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 F 0 B 2	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、10桁に設定したい場合は、「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 F 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 F 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.11. コード 93

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 K A 7 0	読み取り無し	■
 K A 7 1	読み取り有り	
 K B B 0	チェックビット検査無し	■
 K B B 1	チェックビット検査有り (1チェックビット)	
 K B B 2	チェックビット検査有り (2チェックビット)	
 K A 6 0	チェックビット送信無し	■
 K A 6 1	チェックビット送信有り	
 K A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 K A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 K 0 A 2	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、4桁に設定したい場合は、「設定開始」「最小読取桁数」「0」「4」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 K 0 B 2	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、10桁に設定したい場合は、「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 K 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 K 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.12. コード 11

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 L A 7 0	読み取り無し	■
 L A 7 1	読み取り有り	
 L B B 0	チェックビット検査無し	
 L B B 1	チェックビット検査有り (1チェックビット)	
 L B B 2	チェックビット検査有り (2チェックビット)	■
 L A 6 0	チェックビット送信無し	■
 L A 6 1	チェックビット送信有り	
 L A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 L A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 L 0 A 2	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、4桁に設定したい場合は、「設定開始」「最小読取桁数」「0」「4」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 L 0 B 2	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、10桁に設定したい場合は、「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 L 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 L 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.13. MSI/Plessey

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 M A 7 0	読み取り無し	■
 M A 7 1	読み取り有り	
 M B B 0	チェックビット検査無し	
 M B B 1	チェックビット検査有り (1 チェックビット, Mod 10)	■
 M B B 2	チェックビット検査有り (2 チェックビット, Mod 10/10)	
 M B B 3	チェックビット検査有り (2 チェックビット, Mod 11/10)	
 M A 6 0	チェックビット送信無し	■
 M A 6 1	チェックビット送信有り	
 M A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 M A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 M O A 2	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、4桁に設定したい場合は、「設定開始」「最小読取桁数」「0」「4」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 M O B 2	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、10桁に設定したい場合は、「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 M O S 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 M O 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.14. UK/Plessey

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 N A 7 0	読み取り無し	■
 N A 7 1	読み取り有り	
 N B B 0	チェックビット検査無し	
 N B B 1	チェックビット検査有り	■
 N A 6 0	チェックビット送信無し	■
 N A 6 1	チェックビット送信有り	
 N A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 N A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 N 0 A 2	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、4桁に設定したい場合は、「設定開始」「最小読取桁数」「0」「4」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 N 0 B 2	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、10桁に設定したい場合は、「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 N 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 N 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.15. Telepen

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 O A 7 0	読み取り無し	■
 O A 7 1	読み取り有り	
 O B 9 0	フォーマットタイプ 数字	■
 O B 9 1	フォーマットタイプ ASCII	
 O B 9 2	フォーマットタイプ 自動切替	
 O B B 0	チェックビット検査無し	■
 O B B 1	チェックビット検査有り	
 O A 6 0	チェックビット送信無し	■
 O A 6 1	チェックビット送信有り	
 O A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 O A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 0 0 A 2	最小読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、4桁に設定したい場合は、「設定開始」「最小読取桁数」「0」「4」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 0 0 B 2	最大読取桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、10桁に設定したい場合は、「設定開始」「最大読取桁数」「1」「0」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 0 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 0 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.16. GS1 Databar(RSS14)

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 P A 7 0	読み取り無し	■
 P A 7 1	読み取り有り	
 P A 2 0	コードマーク(Je0)送信無し	■
 P A 2 1	コードマーク(Je0)送信有り	
 P A 3 0	アプリケーション ID(01)送信無し	■
 P A 3 1	アプリケーション ID(01)送信有り	
 P A 6 0	チェックビット送信無し	■
 P A 6 1	チェックビット送信有り	
 P A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 P A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 P 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 P 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.17. GS1 Databar Limited(RSS14 Limited)

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 O A 7 0	読み取り無し	■
 O A 7 1	読み取り有り	
 O A 2 0	コードマーク(Je0)送信無し	■
 O A 2 1	コードマーク(Je0)送信有り	
 O A 3 0	アプリケーション ID(01)送信無し	■
 O A 3 1	アプリケーション ID(01)送信有り	
 O A 6 0	チェックビット送信無し	■
 O A 6 1	チェックビット送信有り	
 O A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 O A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 Q 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 Q 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.18. GS1 Databar Stacked(RSS14 Stacked)

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 R A 7 0	読み取り無し	■
 R A 7 1	読み取り有り	
 R A 2 0	コードマーク(]e0)送信無し	■
 R A 2 1	コードマーク(]e0)送信有り	
 R A 3 0	アプリケーション ID(01)送信無し	■
 R A 3 1	アプリケーション ID(01)送信有り	
 R A 6 0	チェックビット送信無し	■
 R A 6 1	チェックビット送信有り	
 R A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 R A 5 1	先頭 0 削除有り	

コマンドバースコード	説明	デフォルト
 R 0 8 2	前方削除桁数 左のコマンドバースコードをスキャンした後、続けて下記の数値バースコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バースコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 R 0 9 2	後方削除桁数 左のコマンドバースコードをスキャンした後、続けて下記の数値バースコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バースコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バースコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
確定  % O K		

6.19. GS1 Databar Expanded(RSS Expanded)

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 S A 7 0	読み取り無し	■
 S A 7 1	読み取り有り	
 S A 2 0	コードマーク(]e0)送信無し	■
 S A 2 1	コードマーク(]e0)送信有り	
 S A 3 0	アプリケーション ID(01)送信無し	■
 S A 3 1	アプリケーション ID(01)送信有り	
 S A 6 0	チェックビット送信無し	■
 S A 6 1	チェックビット送信有り	
 S A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 S A 5 1	先頭 0 削除有り	
 S 0 8 2	<u>前方削除桁数</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は 00~99 です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 S 0 9 2	<u>後方削除桁数</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は 00~99 です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
 % 0 0	 % 0 1	
 % 0 2	 % 0 3	
 % 0 4	 % 0 5	
 % 0 6	 % 0 7	
 % 0 8	 % 0 9	
<u>確定</u>  % O K		

6.20. GS1 Databar Expanded Stacked(RSS Expanded Stacked)

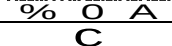
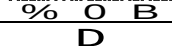
設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 T A 7 0	読み取り無し	■
 T A 7 1	読み取り有り	
 T A 2 0	コードマーク(]e0)送信無し	■
 T A 2 1	コードマーク(]e0)送信有り	
 T A 3 0	アプリケーション ID(01)送信無し	■
 T A 3 1	アプリケーション ID(01)送信有り	
 T A 6 0	チェックビット送信無し	■
 T A 6 1	チェックビット送信有り	
 T A 5 0	先頭 0 削除無し	■
 T A 5 1	先頭 0 削除有り	
 T 0 8 2	<u>前方削除桁数</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの先頭2桁を削除したい場合は、「設定開始」「前方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
 T 0 9 2	<u>後方削除桁数</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の数値バーコードで2桁の数値をスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。設定範囲は00~99です。例えば、読取データの後方2桁を削除したい場合は、「設定開始」「後方削除桁数」「0」「2」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	00
数値バーコード		
 % 0 0	 % 0 1	
 % 0 2	 % 0 3	
 % 0 4	 % 0 5	
 % 0 6	 % 0 7	
 % 0 8	 % 0 9	
確定  % O K		

7. データ送信フォーマットに関するパラメータ

7.1. プリアンブル

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバースコード	説明	デフォルト
 8 C 6 0	プリアンブル送信無し	
 8 C 6 1	プリアンブル送信有り	■
 8 3 0 D	プリアンブル 左のコマンドバースコードをスキャンした後、続けて下記の16進数バースコードで2桁のASCIIコードをスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バースコードをスキャンします。ASCIIコード2桁で1文字を表し、最大8文字まで設定可能です。例えば、TAB(09h)に設定したい場合は、「設定開始」「プリアンブル」「0」「9」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。何も設定したくない場合は、「設定開始」「プリアンブル」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	無し
16 進数バースコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
A  % 0 A	B  % 0 B	
C  % 0 C	D  % 0 D	
E  % 0 E	F  % 0 F	
確定  % O K		

データ送信フォーマット

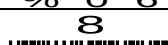
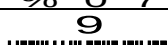
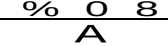
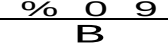
プリアンブル	プリフィックス	コード名	コードID	コード桁数(2桁)	読取データ	サフィックス	ホストアンブル
--------	---------	------	-------	-----------	-------	--------	---------

*)プリアンブル/プリフィックス/コード名/コードID/コード桁数/サフィックス/ホストアンブルは、何れも送信無しに設定することも可能です。

*)コードIDは、読取データの後に送信することも可能です。

7.2. ホストアプブル

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 8 C 7 0	ホストアプブル送信無し	
 8 C 7 1	ホストアプブル送信有り	■
 8 3 8 D	<u>ホストアプブル</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の16進数バーコードで2桁のASCIIコードをスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。ASCIIコード2桁で1文字を表し、最大8文字まで設定可能です。例えば、TAB(09h)に設定したい場合は、「設定開始」「ホストアプブル」「0」「9」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。何も設定したくない場合は、「設定開始」「ホストアプブル」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	CR/LF (0Dh/0Ah)
16進数バーコード		
 % 0 0	 % 0 1	
 % 0 2	 % 0 3	
 % 0 4	 % 0 5	
 % 0 6	 % 0 7	
 % 0 8	 % 0 9	
 % 0 A	 % 0 B	
 % 0 C	 % 0 D	
 % 0 E	 % 0 F	
確定  % O K		

データ送信フォーマット

プリアプブル	プリフィックス	コード名	コードID	コード桁数(2桁)	読取データ	サフィックス	ホストアプブル
--------	---------	------	-------	-----------	-------	--------	---------

*)プリアプブル/プリフィックス/コード名/コードID/コード桁数/サフィックス/ホストアプブルは、何れも送信無しに設定することも可能です。

*)コードIDは、読取データの後に送信することも可能です。

7.3. プリフィックス

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 8 2 0 D	<u>プリフィックス</u> 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の 16 進数バーコードで 2 桁の ASCII コードをスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。ASCII コード 2 桁で 1 文字を表し、最大 8 文字まで設定可能です。例えば、TAB(09h)に設定したい場合は、「設定開始」「プリフィックス」「0」「9」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。何も設定したくない場合は、「設定開始」「プリフィックス」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	無し
16 進数バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
A  % 0 A	B  % 0 B	
C  % 0 C	D  % 0 D	
E  % 0 E	F  % 0 F	
確定  % 0 K		

データ送信フォーマット

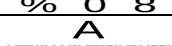
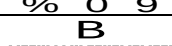
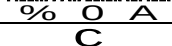
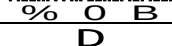
プリアンブル	プリフィックス	コード名	コードID	コード桁数(2桁)	読取データ	サフィックス	ポストアンブル
--------	---------	------	-------	-----------	-------	--------	---------

*)プリアンブル/プリフィックス/コード名/コードID/コード桁数/サフィックス/ポストアンブルは、何れも送信無しに設定することも可能です。

*)コードIDは、読取データの後に送信することも可能です。

7.4. サフィックス

設定開始  / \$ % E N T	設定キャンセル  Z E X T	設定終了  Z E N D
---	---	--

コマンドバーコード	説明	デフォルト
 8 2 8 D	サフィックス 左のコマンドバーコードをスキャンした後、続けて下記の16進数バーコードで2桁のASCIIコードをスキャンし、最後に「確定」「設定終了」バーコードをスキャンします。ASCIIコード2桁で1文字を表し、最大8文字まで設定可能です。例えば、TAB(09h)に設定したい場合は、「設定開始」「サフィックス」「0」「9」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。何も設定したくない場合は、「設定開始」「サフィックス」「確定」「設定終了」の順でスキャンします。	無し
16 進数バーコード		
0  % 0 0	1  % 0 1	
2  % 0 2	3  % 0 3	
4  % 0 4	5  % 0 5	
6  % 0 6	7  % 0 7	
8  % 0 8	9  % 0 9	
A  % 0 A	B  % 0 B	
C  % 0 C	D  % 0 D	
E  % 0 E	F  % 0 F	
確定  % 0 K		

データ送信フォーマット

プリアンブル	プリフィックス	コード名	コードID	コード桁数(2桁)	読取データ	サフィックス	ポストアンブル
--------	---------	------	-------	-----------	-------	--------	---------

*)プリアンブル/プリフィックス/コード名/コードID/コード桁数/サフィックス/ポストアンブルは、何れも送信無しに設定することも可能です。

*)コードIDは、読取データの後に送信することも可能です。

補足 A キーボードコード表 & ASCIIコード表

キーボードコード表								
	0	1	2	3	4	5	6	7
0			SP	0	@	P	`	p
1	↑	F1	!	1	A	Q	a	q
2	↓	F2	"	2	B	R	b	r
3	←	F3	#	3	C	S	c	s
4	→	F4	\$	4	D	T	d	t
5	Page Up	F5	%	5	E	U	e	u
6	Page Down	F6	&	6	F	V	f	v
7		F7	'	7	G	W	g	w
8	Back Space	F8	(	8	H	X	h	x
9	Tab	F9	)	9	I	Y	i	y
A		F10	*	:	J	Z	j	z
B	Home	Esc	+	;	K	[	k	{
C	End	F11	,	<	L	¥	l	
D	Enter	F12	-	=	M	]	m	}
E	Insert	Ctrl+	.	>	N	^	n	~
F	Delete	Alt+	/	?	O	_	o	

✓ファンクション-イミューションを有り(「3.4. ファンクション-イミューション」)に設定した場合、01~1Fhex に対応する網掛け部分のファンクションキーが送信されます。但し、この機能は、USB キーボードインターフェイスでのみ使用可能です。

ASCIIコード表									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0	NUL	DLE	SP	0	@	P	`	p	
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q	
2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r	
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s	
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t	
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u	
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v	
7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w	
8	BS	CAN	(	8	H	X	h	x	
9	HT	EM	)	9	I	Y	i	y	
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z	
B	VT	ESC	+	;	K	[	k	{	
C	FF	FS	,	<	L	¥	l		
D	CR	GS	-	=	M	]	m	}	
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~	
F	SI	US	/	?	O	_	o	DLE	

補足 B データ送信フォーマット

プリアンブル	プリフィックス	コード名	コード ID	コード桁数(2桁)	読取データ	サフィックス	ポストアンブル
--------	---------	------	--------	-----------	-------	--------	---------

*)プリアンブル/プリフィックス/コード名/コード ID/コード桁数/サフィックス/ポストアンブルは、何れも送信無しに設定することも可能です。

*)コード ID は、読取データの後に送信することも可能です。

補足 C サンプルバーコード

コード 39



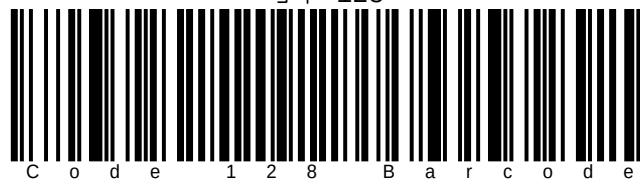
JAN-13



インターピット 2/5 (ITF)



コード 128



RSS-14



Blank page

修理依頼書

修理を依頼される場合は、下記の用紙に必要事項を記入し、修理品と一緒に販売店へご返送ください。尚、修理は全て宅配便方式で行います。現地での出張修理などは一切行いません。

修理依頼書			
依頼日			
会社名			
部署名			
担当者			
メールアドレス			
電話番号		FAX 番号	
ご住所			
販売店名		ご購入日	
製品型番（名称）			
製造番号（S/N）			
付属品	ケーブル[]・ACアダプタ		
トラブルの症状を詳しく記入してください。 また、症状を確認するために必要なバーコードラベルや磁気カード等があれば、修理品に添付してお送りください。 症状発生頻度 : ☐ 常に起こる ☐ 1 日に [] 回程度 インターフェイス : ☐ キーボード ☐ RS232C ☐ USB ☐ その他 [] 接続ホスト : メーカー [] 型番 [] その他、使用状況を記入ください。			
返送先			
見積・請求先			
スポットサービス時は、修理見積後に修理をキャンセルされた場合に限り、見積料として弊社所定の料金を申し受けます。ご了承いただける場合は、押印の上、修理品に添付してご返送ください。			ご確認印